

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

平成 28 年 4 月発行 76-3

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

朝日新聞「Re ライフ」で『お手玉』を紹介

宮中会長、森教授、東京お手玉の会が登場

朝日新聞は、毎週月曜日に「Re ライフ」というページを設けています。おもに50、60代の読者層のよりよい生活に資するというのが、この紙面の考え方で、お題は読者からいただく、という形式になっています。



その「Re ライフ」の3月28日(月)の紙面で、『童心に戻り心も弾む』のタイトルで、『お手玉』が取りあげられました。

お手玉は「いつでもどこでも誰とでも」

記事は、日本のお手玉の会の宮中雲子会長のインタビュー、遊び方の図解、そして、「病院で活用」「脳への効果」「作る楽しみ」など3か所の訪問記事が紹介されています。

この記事を読まれた方から、本部に、「近くの支部を教えて…」、「どんな遊び方があるの？」などの問い合わせが100件近くありました。「お手玉」への関心の高さに驚いています。

主な内容をご紹介します。まず、宮中会長は、「いつでも、どこでも、誰とでも遊べる気軽さが、お手玉の魅力」と前置きして、お手玉の技量認定を紹介し、進歩へのチャレンジの楽しさを話しています。また、「お手玉は言葉、国境、年齢、人種を超越するコミュニケーション媒体になります」と、お手玉の素晴らしさを説いています。

「お手玉を楽しむ」の項では、歌いながらお手玉回し、両手二つゆり、両手三つゆり、俵型お手玉の作り方を、イラストで描かれています。

脳への効果を知ってもっと多くの人が

そのほか、病院に入院中の精神疾患や認知症のお年寄りに、看護師の水野晴子さん(日本のお手玉の会会員)の指導でお手玉遊びをして、笑顔が戻り食欲が増したと伝えています。

日本大学の森昭雄教授(脳神経科学・日本のお手玉の会顧問)は、「お手玉は前頭前野を活性化する。2個のお手玉の色を変えたり、時計回しが得意なら反対回しにもチャレンジするなどによる脳への効果を知って、もっと多くの人にやってもらいたい」といっています。

東京お手玉の会の定例会の取材では、「おしゃべりをしながらのお手玉作りは楽しい。テレビを視ながらでもできるので、家の布きれで1回試して欲しい」と、飯田喜久子さんが、お手玉づくりを呼びかけています。